

精進

● 目次	1
● 会長挨拶	2
● 令和四年度定時総会報告	3
● 執行部・出向者紹介	4
● 「禅の暦」頒布の税務判断並びに 決算報告書の一本化について	5
● 令和三年度事業報告・収支決算書	6・7
● 令和四年度事業計画・収支予算書	8・9
● 支部だより(県北・県中・県南)	10
● 支部だより(相双・いわき・会津)	11
● 役員会・カレンダー委員会	12
● 六十周年事業委員会報告	13
● 令和五年版「禅の暦」紹介	14
● 僧見聞録・編集後記	14

曹洞宗福島県青年会会報

第112号

22.9.30

曹洞宗福島県青年会 令和4年度定時総会





会長挨拶

会長 佐藤泰典

不安定な天気が続いた夏が終わり、秋の訪れを感じられる時節となりました。青年会会員各位におかれましては益々ご清祥のことと拝察申し上げます。また県内寺院の皆様方には平素より青年会活動に対しご理解、ご協力を賜り謹んでお礼申し上げます。

去る四月十八日に行われた県青年会の総会にて、前会長矢内大丘師より会長の任を引き継ぎ、令和四・五年度の二年間にわたり務めることとなりました。若輩者で、身に余る大役ではありますが、これも何かの縁、巡り合わせだと思いに感じ、事務局、各支部長の協力を仰ぎながら精一杯頑張る気持ちでおります。

新型コロナウイルスの流行、拡大から今年で三年目になりました。感染はまだ衰えるどころか盛んになってきている中で、私たちの青年会活動も制限されています。そんな状況ではありますが、感染対策を行いながら少しずつ活動を活性化できればと思っております。その始まりとして、三年ぶりに県総会を対面にて開催することが出来ました。また、コロナ禍で撮影が困難な中、大谷眞城委員長を中心とする県南支部の委員の尽力により、本年も素晴らしい「禪の暦」が完成いたしました。ぜひ檀信徒教化の一助として頂ければと思います。各支部主催の自由研修会も出来る限り開催していければと思います。

来年の三月は東日本大震災から十二年、十三回忌を迎えます。三月十一日当日は午前中相双地区の慰霊碑を供養して廻り、午後には相馬市内の葬祭場にて十三回忌法要を執り行います。その十三回忌法要奉讃事業として、震災の物故者諸精霊の鎮魂を願い、「絆の道」と題していわき市から新地町の沿岸を行脚して歩きます。九月より月に三・四回程度、各支部持ち回りで繋ぎながら、被災地に寄り添い、今なお続く復興への願いをこめて約百三十キロメートルを慰霊行脚します。この事業を通して、いまだ消えぬ震災の影響に想いを馳せるとともに、コロナ禍で中々叶わなかった青年会員同士の交流、絆を深めていければと思っております。また二月には、福島原子力発電所を見学し、原発の「今」を知る機会を設ける予定です。

来年度は曹福青創立六十周年を迎えます。その節目となる年に向けて、スローガンを「曹福青 60th Reborn : 新時代を、禅力でひらく。」と定め、楠恭信委

員長をはじめとする実行委員会を中心に企画を進めております。来年秋に行う記念イベントに向けて、頒布物の制作、慈善活動、情報発信事業を展開します。その記念イベントに先立ち、今年度は曹福青ホームページを作成し、SNSアカウントを活用しながら広く曹福青の活動を内外に発信していく契機とします。

「大衆の威神力」という言葉があります。修行道場で良く使われる言葉ですが、私は十五年間の青年会活動への参加を通して、修行時代同様強くこの言葉の力を感しました。一人では為すことが困難でも、様々な個性をもった会員の皆様と協力しながら事に臨み、禅力で二年間走り抜けていきます。

最後に、青年会の先輩も大勢おられます県内各寺院の皆様、また青年会各支部の会員の皆様に対してお礼、ご協力をお願い申し上げます。また皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。会長就任の挨拶とさせていただきます。

令和四年度 定時総会報告

令和四年四月十八日(月)、福島市パルセいいざかを会場に「令和四年度曹洞宗福島県青年会定時総会」が開催されました。



午後一時、事務局長の本田和也師の進行により、副会長三田大芳師から開会の辞が述べられました。引き続き矢内大丘会長より会長挨拶をいただき、終わって県中支部の安倍元宏師を議長に選出し、会員数九十一名、出席者四十七名、

委任状提出者二十八名により本総会が成立する旨が報告され、議事に入りました。

報告があり、続いてカレンダー事業決算報告、並びにカレンダー委員長佐藤正乗師よりの挨拶の後、会計監査より帳簿、領収書等正確適正に記入運用されているとの監査報告



がなされ、承認されました。

第二号議案「曹洞宗福島県青年会会則、災害活動・寄付基金、特別委員会規定改正」について事務局より説明がなされ、承認されました。

第三号議案「役員改選」では、新会長に佐藤泰典師(会津)が選出され、副会長に内藤宏信師(県南)村上徹信師(いわき)事務局長に井上順平師(会津)、庶務に竹内正龍師・山田康裕師(会津)、会計に黒金泰寛師(会津)会計補に寿上

祐光師(会津)、会計監査に野田孝順師(県北)田中俊幸師(相双)、来年度カレンダー委員長に大谷眞城師(県南)、精進委員長に安倍元宏師(県中)、曹福青創立六十周年事業委員長に楠恭信師(会津)が新会長より指名され、新役員として承認されました。

続いて第四号議案「令和四年度事業計画案並びに予算案報告」が事務局より上程され、可決承認されました。

議事終了後令和五年版カレンダー委員長に就任された県南支部大谷眞城師よりカレンダー制作への熱い思いが会員に向けて語られました。

最後に本年度総会を以って退会されます会員三名が紹介され、代表で県南支部川崎文隆師よりお言葉を賜り、閉会となりました。



(事務局長 井上順平 記)

執行部・出向者紹介

執行部

役 職	氏 名	寺院名	支 部
会 長	佐藤泰典	恵倫寺	会 津
副 会 長	内藤宏信	大龍寺	県 南
副 会 長	村上徹信	医王寺	いわき
60周年事業委員長	楠 恭信	長照寺	会 津
カレンダー委員長	大谷眞城	金剛院	県 南
精進委員長	安倍元宏	大慈寺	県 中
事 務 局 長	井上順平	良縁寺	会 津
庶 務	竹内正龍	秀長寺	会 津
庶 務	山田康裕	秀安寺	会 津
会 計	黒金泰寛	安穩寺	会 津
会 計 補	寿上祐光	善龍寺	会 津

全日仏青出向者

村上徹信	WFBY 会計次長	医王寺
------	-----------	-----

全曹青出向者

内藤宏信	災害復興支援部アドバイザー	大龍寺
村上徹信	国際特別委員	医王寺

前列左より 大谷眞城 師 (カレンダー委員長)
 内藤宏信 師 (副 会 長)
 佐藤泰典 師 (会 長)
 村上徹信 師 (副 会 長)
 楠 恭信 師 (60周年事業委員長)
 安倍元宏 師 (精進委員長)

後列左より 山田康裕 師 (庶 務)
 黒金泰寛 師 (会 計)
 寿上祐光 師 (会 計 補)
 井上順平 師 (事務局長)
 竹内正龍 師 (庶 務)



曹福青の「禪の暦」頒布の税務判断並びに 決算報告書の一本化について

税理士 鈴木 文弘



拝啓 盛夏の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご厚誼にあずかり、厚く御礼申し上げます。

当事務所は、昨年に引き続き、曹洞宗福島県青年会事業の税務顧問を拝命いたしました。

今後ともどうぞよろしくお願いたします。皆様のお役に立てるように頑張ります。

その他

当事務所は、お客様を第一に考え税務署勤務 35 年間の実績と経験を活かし、税務顧問として地域の方々のために、信頼される税理士事務所を目指して開設しました。また、当事務所は、4 つの国家資格等(税理士・行政書士・二級ファイナンシャルプランナー・宅地建物取引主任者)を取得しております。また、経営革新等支援機関・成年後見制度支援認定・地方公共団体監査制度認定・中小企業創業者支援認定・郡山市消防団サポート事業所認定等の各種資格を取得しております。

そこで、特に、資産税の申告書作成においては、臨時・偶発的で高額かつ複雑な税法上の様々な特例制度を活用できるかどうかにより、税負担に差が出ることから、特に、お客様の身になって適正な申告書の作成に心掛けております。

敬具

【プロフィール】

昭和 56 年 3 月	福島県立磐城高校を卒業。
昭和 58 年 4 月	国家公務員初級採用試験に合格し、仙台国税局に任官。
昭和 59 年 7 月	財務事務官として、会津若松・白河・喜多方・仙台北・二本松・いわき・郡山の各税務署にて勤務。
平成 30 年 5 月	郡山税務署を最後に退職。 ※在職中は、30年間、資産税担当(相続税、贈与税、不動産・株式等の売買)として、申告・審査・審理・調査を行っていました。また、税理士資格及び宅地建物取引士の資格を取得しました。
平成 30 年 8 月	東北税理士会郡山支部の総務部委員となる。
平成 30 年 9 月	郡山市駅前1-4-9 野田屋ビル2階に税理士事務所を開設。
平成 30 年 12 月	東北税理士会会長より「成年後見制度支援機関」及び東北財務局長・東北経済産業局長より「経営革新等支援機関」の各認定を受ける。
平成 31 年 3 月	二級ファイナンシャル・プランニング技能士の国家資格を取得。
令和 3 年 7 月	東北税理士会郡山支部税務支援対策部 副部長に就任。
令和 3 年 9 月	郡山市堂前町1番2号 石井ビル2階 24号に事務所移転。

曹福青の「禪の暦」頒布の税務判断の根拠

収益事業の具体的範囲(平成 20 年の公益法人制度改革)

- 既存の公益法人が次の 2 つに区分された。(公益認定法の制定に伴う)
 - 公益認定を受けた公益社団法人・公益財団法人
 - 公益認定を受けない一般社団法人・一般財団法人
 - さらに(2)が、非営利型と非営利型以外に区分された。
- 売店等で物品を販売する事業(法人税法基本通達:15-1-10)
 - ・お守り、お札、おみくじ等の販売⇒非課税
 - ・絵葉書、写真帳、暦、線香、ろうそく、供花等の通常販売価額による販売⇒課税(物品販売業)
- 2のうち、その売価と仕入原価との関係からみてその差額が通常の物品販売業における売買利潤ではなく、実質は喜捨金と認められる場合のその販売は物品販売業には該当しないものとされています(基通 15-1-10 (1))。

※結論としては、宗教法人が宗教活動に関連して、信者や参詣人などから献納されるおさい銭や喜捨金は現行税法上、課税の対象とならないことから、実質的に喜捨金と認められるようなカレンダーの頒布については、おさい銭や喜捨金と同じように課税の対象とならないものと判断されます。

決算報告書の一本化について

「一般の会計」および「禪の暦の会計」を別々に会計処理し、また、表示についても別々にされていたため、曹福青としては、会計処理を分ける必要性はないと考える旨、お話しをさせていただきました。

理由は、禪の暦についても、曹福青の布教活動と同様に考えられるためです。

令和 4 年 7 月吉日

税理士 鈴木 文弘

令和3年度 事業報告

令和3年

4月7日	会計監査(カレンダー委員会・県執行部)・第1回役員会(南東北総合卸センター)
4月19日	総会資料 発送作務(相馬市蒼龍寺)
5月12日	全曹青定期評議会・中央研修会・定期総会(オンライン)
5月27日	東北地協常任幹事会・定例幹事会(オンライン)
5月13日	第1回カレンダー委員会・第2回役員会(南東北総合卸センター)
6月8日	第2回カレンダー委員会(オンライン)
6月9日	事務局会(川内村長福寺)
6月21日	第1回周年事業準備委員会(南東北総合卸センター・オンライン併用)
7月1日	第3回カレンダー委員会(オンライン)
9月8日	東北地協臨時常任幹事会(オンライン)
9月11~12日	令和3年度禅文化学林 大本山総持寺開創700年奉讃イベント (大本山総持寺祖院・オンラインフェスタ)
10月5日	事務局会(オンライン)
10月15日	第2回周年事業準備委員会(南東北総合卸センター・オンライン併用)
11月8日	東北地協常任幹事会(オンライン)
11月9日	第46回東北地方集会岩手大会「祈」(オンライン)
11月25日	全曹青臨時評議委員会(オンライン)
12月2日	事務局会(オンライン)
12月13日	第3回役員会(南東北総合卸センター)

令和4年

1月17日	事務局会
1月21日	事務局会(オンライン)
2月7日	東北地協常任幹事会(オンライン)
2月17日	事務局会(川内村長福寺)
2月25日	第3回周年事業準備委員会(南東北総合卸センター・オンライン併用)
3月10日	全曹青東日本大震災慰霊復興祈願法要(伊達市成林寺・オンライン法要)
3月11日	東日本大震災慰霊行脚(南相馬市 他)
3月22日	総会通知発送作務(南相馬市千相院)
3月28日	事務局会(南東北総合卸センター)
3月31日	第4回カレンダー委員会・第4回役員会(南東北総合卸センター)

令和4年度 事業計画

令和4年

4月5日	会計監査(カレンダー委員会 県執行部) 南東北総合卸センター
4月7日	災害ボランティア活動(南相馬市)
4月18日	曹洞宗福島県青年会定時総会(パルセ飯坂)
5月10日	全曹青評議委員会(オンライン併用)
5月11日	全国曹洞宗青年会定期総会(オンライン併用)
7月～8月	「禅のつどい」(各支部)
10月	令和5年版カレンダー発送開始予定
11月26日	東北地方集会宮城大会(禅文化学林)
12月	「歳末助け合い托鉢」(各支部)

令和5年

3月11日	東日本大震災 13 回忌
3月下旬	カレンダー委員会反省会

※ 4月～通年 (必要に応じて開催)

- ・ 役員会 (県執行部、各支部長)
- ・ 令和5年版カレンダー委員会 (県南支部担当)
- ・ 令和5年度精進委員会 (県中支部担当)
- ・ 各支部「自由研修会」
- ・ 周年事業委員会

新入会員紹介

氏名	寺院名	支部名
阿部木童	常円寺	県北
木町元風	西光寺	県中
竹内寛道	金昌寺	県中
室井弘義	月心院	県南
矢内隆元	龍台寺	相双

支部だより

県北



五月十六日に三年ぶりと
なる県北青年会（県北支部）総
会を福島市東安寺様にて開催
しました。

依然コロナ禍ではありません
が感染予防を徹底した上で、
令和四年度は両祖忌法要、歳
末助け合い托鉢、東日本大震災十三回忌慰霊法要を
行うことが承認されました。

また、令和七年に創立五十周年を迎えることから
（創立当初の名称は曹洞宗福島市青年会）記念事業に
向けての準備事務局を立ち上げ
ることも併せて承認されました。

依然大規模集会の実施は
中々難しいですが、オンライン
を併用しながらの支部自由研修
会等も企画できないか検討して
いきたいと思っております。

今期事務局については左記の
通りです。

会 長（支部長） 高山光正
副会長 吉岡統親
副会長 伊藤正稔
事務局長 春日顕光
庶務 岡本大了
計 務 寺島正顕

（県北支部 清水清孝 記）



県中



令和四年六月一日（水）、
郡山市大慈寺様に於いて三
年ぶりに定例総会が開催さ
れました。県中の青年会は
県中支部の正会員だけでは
なく、OB会員（四十五歳
以上）の方も含む組織とし
て、県青年会発足当初より
「県中青年会」として活動
をして参りました。故に各
種行事にも例年OB会員が
多数出席され、二十代から
八十代まで交流を深めております。

今春より役員改選となり、新支部長に高橋浩紀
師、副支部長に安倍元宏師。庶務に西川秀哉師、
会計に高菜清二師。カレンダー委員には大柳匡弘
師、廣瀬秀保師。精進委員には木町元風師が選出
されました。

ここ数年の事業内容としてはコロナ前に行わ
れていた郡山駅前での花まつり、四く五会場に
て毎晩カレーを食べてい



た禅のつどい、托鉢、ソ
フトボール大会、ボウリ
ング大会、忘新年会等、
すべてが中止となつてお
り、本年も同様となりそ
うです。
本年度より竹内寛道
師、木町元風師が入会し
ました。活躍が期待され
ます。

（県中支部 木町元風 記）

県南



去る令和四年五月十日
（火）、玉川村円通寺様
において県南青年会の定時
総会が開催されました。
今年度は任期満了に伴う
役員改選となり、根本英
法師のもとでの新体制が
発足しました。川崎文隆
師在任中の二年間はコロ
ナ禍に見舞われ、県南青
年会としては恒例行事が
出来ない難しい状況でしたが、新年度を迎えて会員
より意見を募りながらコロナ禍にあつても実施でき
る取り組みを模索しているところでもございます。
また、今年度から白河市月心院副住職、室井弘義師
を新会員として迎えることができました。会員減少
の中、貴重な即戦力として若く新たな視点で青年会
活動の発展に寄与してくれることを大いに期待して
おります。

県事業においては、『令和五年
版 禅の暦』の企画・制作を県
南支部が担当いたします。テー
マを『利他の心とともに生きる』
とし、コロナ禍の時代にあわせ
た素晴らしい内容に仕上がって
います。各御寺院様における布
教教化の一助として、是非ご活
用ください。

（県南支部 長谷川俊隆 記）



相 双

支部役員紹介・・・相双支部長、六十周年、十三回忌記念事業委員、島村哲哉師。令和六年度カレンダー委員長、矢内大丘師。同じく事務局長、齋藤紹俊師。同じく会計、支部会計、六十周年、十三回忌記念事業委員田中俊幸師。支部庶務、令和六年度カレンダー庶務、六十周年、十三回忌記念事業委員、本田和也師。



支部総会について・・・相馬市内に於いて支部総会並びに退会される石井秀芳師送迎会を行いました。今年度の地震による各寺院の被害確認やコロナ禍での各寺院の状況、相双担当のカレンダー作成について議論を交わしました。

会員の近況・・・富岡町龍台寺徒弟、矢内隆元師が本山總持寺での安居を終え、青年会員として入会されました。今後の活躍が期待されます。隆元師のコメント「至らない点もあるかと存じますが、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。」又、当会員で、令和六年度版カレンダー作成に向けて、日々打ち合わせを重ねております。



八月二十三日、南相馬市鹿島区陽山寺様よりボランティア依頼があり、相双会員で地震被害の片付け作業を行いました。今年三月の大地震により、本堂や客殿等が大規模半壊しており、復旧を願うばかりです。

(相双支部 齋藤紹俊 記)

いわき



当支部はいわき市を範囲とし、第十五教区及び第二十二教区の会員で構成されています。四月二十七日には新支部長である三田大芳師が住職を務める円福寺にて支部の定例総会を開催、前年度決算、新年度予算や行事予定が承認され、新役員の下新年度がスタートしました。

七月二十四日、同二十九日には三年振りとなる緑蔭禅のつどいを医王寺、龍雲寺にて開催、新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぎながら、例年とは異なる一日開催ながらも、参加した子どもたちは坐禅や落語など日常生活では味わえない体験を全身で満喫していました。

九月五日からは東日本大震災十三回忌奉賛事業がいわき市で開催され、当支部は行脚される各支部からの参加者の方々のサポートに回ります。残暑からの熱中症や新型コロナウイルス感染症への感染防止に十分配慮して事業の円成を目指します。

(いわき支部 福羽敦正 記)



会 津

会津支部執行部は、支部長伊藤法道師、副支部長高橋泰典師、庶務寿上祐光師、会計田澤孝学師という新体制になりました。二年間支部長をお勤めになられた須藤智顕師、お役目ご苦労様でございました。



新執行部の総会は五月十六日にルネッサンス中の島で開かれました。議題としては、支部研修旅行、曹洞宗青年会六十周年事業、カレンダー委員会等について話し合いました。

また、禅のつどいについては、コロナ禍の為中止とさせていただきます。その後、OBの方々を交えながら、感染対策をした上で懇親会を開かせていただきました。続いて七月二十六日に秀安寺様にて定例会を行い、両祖忌、ITリテラシーの自由研修の開催について話し合いました。九月五日には「絆の道」第二回を会津支部で修行することとなりました。大勢の参加が期待されます。

今期、会津支部は県執行部も担当することとなりました。複数の役職を兼ねる会員も多く忙しい二年間となりますが、全員で県青年会を盛り立てていきたいと思っております。高橋亮達師を新会員に迎え、コロナ禍という不安定な情勢に合わせてではありますが、更に会員同士の絆を強く深めていきたいと思っております。

(会津支部 新保宗嗣 記)

役員会報告

役員会は、県事務局、各支部長によって組織され、全曹青・東北地区連絡協議会と曹福青、各6支部との連携を図ることを目的に開催されます。

5月17日(火)	ユラックス熱海(郡山市)
6月6日(月)	南東北総合卸センター(郡山市)
6月29日(水)	南東北総合卸センター(郡山市)
7月20日(水)	南東北総合卸センター(郡山市)
9月1日(木)	オンライン会議(ZOOM)

【議題】

- ・SNS・ホームページ・ロゴ作成について
- ・A4版カレンダーについて
- ・写真付き会員名簿について
- ・各支部自由研修会について
- ・会報誌「精進」について
- ・メーリングリストについて
- ・東日本大震災13回忌について
- ・曹福青60周年事業について
- ・災害義援金について



カレンダー委員会報告

カレンダー委員会は、委員長、事務局長、庶務、会計、各支部2名の委員と県事務局によって組織され、活発な意見交換を通して、より良い「禅の暦」制作を目的に布教教化活動をしております。

4月18日(月)	パルセイいざか(福島市)
6月6日(月)	南東北総合卸センター(郡山市)
6月29日(水)	南東北総合卸センター(郡山市)
7月20日(水)	南東北総合卸センター(郡山市)

【議題】

- ・趣旨について
- ・伝道句について
- ・写真について
- ・デザインについて
- ・文字フォントについて
- ・販促活動について
- ・挨拶文・申込書について
- ・頒布価格・初版部数について



六十周年事業委員会報告

「新時代を、禅力でひらこう。」

60周年記念事業委員会は、来年の曹洞宗福島県青年会60周年に向けて、今年度末の3月11日に修行される東日本大震災13回忌法要正当の奉讃事業として、今秋よりいわき市勿来から新地までの浜街道約130キロの慰霊行脚が予定されております。

また、周年記念行事へ向けて、新たな慈善事業や曹福青オリジナルの頒布物作成など、今年度末までに計5回の実行委員会、各部会の開催を予定しており、楠恭信委員長を中心に準備を進めております。

【十三回忌奉讃事業部会 事務局】

会長 本田 和也師 (相双支部)
 庶務 白石 龍一師 (いわき支部)
 会計 田中 俊幸師 (相双支部)

【頒布物部会 事務局】

会長 荒井 浩之師 (県北支部)
 庶務 高橋 堂悟師 (県中支部)
 会計 秋 信隆師 (県南支部)



令和五年版「禅の暦」紹介

曹洞宗福島県青年会では、昭和五十七年より檀信徒の布教教化の一環として「禅の暦」カレンダー頒布活動を通じ、これまで多くの人々に禅の教えを広めてまいりました。

令和五年版 禅の暦のテーマは、『利他の心とともに生きる』としました。仏教、特に禅では、「今このとき、この場所で、自分を見つめる」という生き方を大切にしてきました。それは、過去や未来ではなく今のいた

だいた命に感謝し、人々の幸せを願いとともに生きる姿です。

新型コロナウイルスが世界的に猛威を振るい、いつ終息するか分からない見えない恐怖との闘いが続き、人々は不安に苛まれていきます。過剰な恐れや適切とは言いがたい行動は、新たな混乱や社会の分断を生み出しました。私たちはコロナ禍から人間の弱さを教えられ、誰しもに恐れられるのを忌避し、排除しようとする心があることを思い知らされました。



このカレンダーは曹洞宗福島県青年会が布教活動の一環として制作したものです。 撮影 磯谷英二

このような時代だからこそ、仏教の根幹にある数多くの教えの中から「利他」を取り上げました。「利他」とは、相手の幸せを願って行動することです。人の苦しみを我が事としてともに生きることです。

ウィズコロナ、アフターコロナの時代は、新しい秩序が生まれ、人と人との関わりがより希薄になるかもしれません。今こそ私たちは、『利他の心』を大切に、人と人、心と心を通いあう社会を目指し、もに実現していきたいと考えています。

本カレンダーが、多くの人々の『利他の心』を育み、私たちが目指すべき『ともに生きる』社会に繋がることを願っています。

年々年初の配布物等にご活用いただき、檀信徒の布教教化の一助となれば幸いに存じます。

なお、当カレンダー・頒布活動を通じてお預かりいたします喜捨金は、当青年会による布教活動や災害復興支援活動に充てさせていただきます。

願わくは此の功德を以て、普く一切に及ぼし、我等と衆生と、皆共に仏道を成ぜんことを。

曹洞宗福島県青年会会長

佐藤 泰典 九拜

同カレンダー委員会委員長

大谷 眞城 九拜

【令和5年版 禅の暦 お申し込み要項】

- カレンダーは1部250円です。(全頁フルカラー印刷、縦53cm横38cm大判8枚)
- カレンダーのご注文は、10部単位でお申し込みください。
- 送料は一律1,000円です。
- 名入れ注文は50部以上一律10,000円の別料金にて受け賜ります。名入れは下記の活字体で山号・寺号・住所・電話番号等をお入れいたします。また、指定原稿(自筆・その他)の場合は下記の寸法に合わせて原稿作成の上、お申し込みハガキと共に封書で東北工業内カレンダー受付係宛にお申し込みください。
- 書体のみの指定(例:ゴシック体)がありましたら通信欄に記入願います。
- お申し込みはFAXまたは、同封のハガキにてお願いいたします。
- 10月14日(金)までお申し込みください。



お問合せ先

東北工業株式会社内カレンダー受付係 (担当: 田村)

〒963-8583 福島県郡山市田村町山中字日照田45 TEL024 (953) 6474 FAX024 (955) 5538

僧見聞録

『故郷福島の力に』

相双支部 蒼龍寺副住職

田中 俊幸

平成二十三年三月十一日、東日本大震災。故郷福島は津波、福島原発原子力事故により言わずもがな大きな被害を受けました。

あの時、私は大本山總持寺で安居中、修行二年目に差しかかる修行僧でした。



修行の身であり、当然、携帯電話も持っておらず、テレビやラジオも観れない中、家族、友人、故郷はどうなってしまうのか。原発事故の影響で住めなくなってしまうのか。いか。地元福島のために自分に何ができるのか。当時の私にはまだ何か人の為にできる能力もなく、この時ほど自分の無力さを痛感したことはありませんでした。

考えた結果、平成二十三年四月本山を送行し、ご縁をいただいた横浜市の寺院二ヶ寺でお勤めしました。その間、大学が法学部で法律の勉強をし、いつか法律系の仕事もしてみたいとも思っていたことから、行政書士、宅地建物取引士の資格の勉強をし、合格しました。

その後、平成二十六年八月から新宿の不動産会

社に就職し、四年間不動産売買仲介等不動産実務に携わりました。

平成三十年十月には故郷、福島県相馬市の蒼龍寺に戻り、副住職となり、同年十一月には庫裡の一角に蒼龍寺内行政書士事務所を開設しました。

行政書士事務所としては主に相続、遺言業務、不動産に関するコンサルティング業務、契約書・約款・規則等作成、行政への許認可申請等、宗教法人関係法務サポート等行っております。

ここ最近では地震に関する行政手続支援や、相続登記未了土地の相続人・不動産調査、遺産分割協議書作成案件のご依頼をいただくことが多いです。

紆余曲折ありましたが、ようやく地元福島に住み、微力ながらも力になれることを嬉しく思います。

また、曹洞宗福島県青年会にも入会させていただき、県青年会の会計をお任せいただき、色々な面で学ばせていただきました。

青年会は災害支援にも力を入れておりますが、自坊、蒼龍寺も助けていただきました。

令和元年十月の台風で墓地全体が浸水し、沢山の泥を残されてしまい、とても当寺の者だけでは対処できず途方に暮れていたところ、延べ約百人と多くの方々に助けていただき、復旧に至りました。

災害の度に、人との繋がりの大切さ、温かさを感じ、自分一人では何もできないことを実感し、皆で助け合う大切さに気がかされます。

これまで多くの方に助けていただきましたが、今度は私がお返しする番。日々精進です。



編集後記

この度、編集委員会を県中支部で担当させて頂くこととなりました。この機会にまず、歴代の「精進」を拝見させて頂きました。昭和五十二年に第一号が発行され、平成十八年秋号よりオーラルカラー化。私の師匠が編集委員長をしていた年の精進もあり、私達が生まれた頃の魅力ある活版な活動が記録されております。県内三十ヶ寺で開催されていた禅のつどい。昭和五十七年に初版一万二千部から始まった禅の暦。年に六回精進が発行されていた昭和五十九年。現在の会員が赤ちゃんとして生まれましたという記事。打率まで載っているソフトボール大会。今までの周年事業の記事。諸先輩方御老師の方々の布教教化への熱意、汗、涙、努力、誠心誠意の思いに触れ、委員長として重責を感じております。

今号が発行されている頃には、お彼岸も終わっていることでしょう。初めての経験で右も左もわかりませんが、諸先輩方が築き上げてこられた法燈を絶やさぬ為、事務局一丸となって二年間の任期を全うして参りたいと思います。宜しくお願ひ申し上げます。

- | | | |
|------|-------|----|
| 委員長 | 安倍 元宏 | 九拜 |
| 事務局長 | 秋山 真宏 | 九拜 |
| 庶務 | 西川 秀哉 | 九拜 |
| 会計 | 高菜 清二 | 九拜 |



精進

第112号

令和4年9月30日

[発行所]

〒965-0822

福島県会津若松市花見ヶ丘3丁目3-8 恵倫寺内

曹洞宗福島県青年会

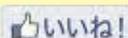
TEL.0242-26-2882

[発行責任者] 佐藤 泰典

[編集責任者] 安倍 元宏



曹福青公式 facebook はじめました



をお願いします

